令和4年度

自己点検・評価報告書

令和5年3月実施
学校法人　神村学園

神村学園専修学校

目次

1　学校の教育目標 ・・・ P1

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 ・・・・・・・・・・・ P1

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念、目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2

(2) 学校運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

(3) 教育活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

(4) 学修成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

(5) 学生支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6

(6) 教育環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7

(7) 学生の受け入れ募集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7

(8) 財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

(9) 法令の遵守 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

(10) 社会貢献・地域貢献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9

(11) 国際交流 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9

4 学校評価の具体的な目標や計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P10

令和4年度　自己点検評価表

神村学園専修学校

1　学校の教育目標

実学による人間性豊かな人柄 神村学園では学力向上と人柄教育を両立させることを教育理念としている。専修学校では「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」をより深く学び、実習においては技術・技能を磨いていなねばならない。しかしながら免許や技能はあくまでも仕事上の条件であり、人間としてのモラル、基本的なマナーを根底に置き、専門職としての職務を果たせるようになることが目標である。看護師・理学療法士・作業療法士・保育士の免許が最大の目標ではなく、その資格・免許を通して社会に貢献できる人材育成を教育の目標としている。 （日本語学科） 日本語教育並びに建学の精神である人柄教育を通し、国際社会に貢献できる資質を備えた感性豊かな人材を育成する。 責任 自分の行動や感情に対して責任を持ち、すべてに対して誠実に対応できる人材の育成に努める。

2　本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「アドミッション・ポリシー（入口）」，「カリキュラム・ポリシー（中身）」，「ディプロマ・ポリシー（出口）」についての基本的方針を策定・実践する ①国家試験全員合格　②授業の中身の充実　③オープンキャンパスの充実（募集活動の充実）　④環境美化に努める　⑤就職支援活動　⑥専任教員養成講習会において看護学教育を深く学ぶ。　⑦社会性、コミュニケーション、創造力の向上　⑧留学生の大学進学率を上げる　⑨専門学校・大学合格、日本での就職等、学生個々の目標達成のためのカリキュラムの実施

3　評価項目の達成及び取組状況

適切・・・4，ほぼ適切・・・3，やや不満・・・2，不適切・・・1

(1)教育理念、目標		評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3
2	学校における職業教育の特色は理解しているか	3
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色将来構想などが学生保護者等に周知されているか	3
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

・学生のコミュニケーション能力の低下
・学生の職業に関する自覚とそれに向かうための動機付け。
・医療人としての知識や技術の向上と、その前に社会常識を学ぶ必要がある
・学科としての明確なディプロマポリシーがない
・『障害があっても地域社会で暮らすための援助方法をいかに伝えるか』が解決できていない。
・自ら学ぶ姿勢をさらに高める必要がある　教育目標の浸透理解
・実習に行くまで「精神障害者」のイメージがうまく醸成できない。
・刻々と変化する社会のニーズを見極められていないのでは？
・学生の社会性、コミュニケーション能力、メタ認知の低下

②今後の改善方策

・自己の考えを言語や文章にて表出を行う。
・作業療法士やリハビリの仕事（人との関わり、治療技術、学業）の楽しみを伝えるための授業や関わり。（学生と共に活動し適切な関を図る）
・人柄教育、プロフェッショナルの育成
・ディプロマポリシーの設定が必要
・論文詳読を通して、最新のリハビリテーションの動向を学ぶことで、多少は解決できると思います。
・教育方針をまずは職員がしっかりと理解し学生に伝えていく
・授業の中で、映像としての資料が学生に提供できれば改善につながるのではないかと考えます。
・日本国内における日本語教育は転換期を迎えており、その変化に対応していく判断力と対応力が必要とされている。
・少しずつ、その都度指導し、学生自身の自己評価と他者評価のする合わせを行っていく

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(2) 学校運営		評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

・ICTへのリテラシーが非常に低く、そのため誤った理解、乏しい知識に基づいた方針の決定、教材選定がされており、今後の教育活動へ多大な支障が出ることが予想される。特に、ごく一部の教員を除いて、学校全体としてICT教育では絶対的に必要となる著作権へのリテラシーが非常に低い。著作権関連は容易に対外的な問題（訴訟、炎上）へと発展しやすいため早急な対策が必要となる。今年度に引き続き来年度もリモート授業を行う可能性も高く、また、学生へデジタル教材の導入をしているため、著作権へのリテラシー教育、指導を個々の教員自身が行うことができるようになる必要がある。
・入管事務と学費・寮費の管理、在籍管理のシステム化

②今後の改善方策

・ICT教育についての勉強会、著作権についての職員研修の実施、学生への著作物の取り扱いについての指導
・システムの導入により、これまで多大な時間を割かれている入管事務と学費・寮費の管理(入金から一覧表作成、年度末の収支確認に及ぶ一連の事務作業)、在籍管理(出席・成績計算)等が効率化されたら、その時間を学生指導や地域連携に充てられ、もっと充実した教育活動が実現できる。

③特記事項

特になし

適切・・・4，ほぼ適切・・・3，やや不満・・・2，不適切・・・1

(3)	教育活動	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先進的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

・自身の問題ではあるが、もっと伝えやすくできないか。国試対策につながるような授業ができるようにならないといけないと考える。また実技的な技術やセラピストとして考えなども同様。
・コロナによるリモートでの授業やタブレット導入後、実習や国家試験への影響を確認する必要がある
・自己研鑽のための研修等への参加が少なかった
・文科省による職業教育（キャリア教育）、医学教育における専門職教育の体制の構築、整備
・養成校教員講習を受講させていただいたことで、いろいろな講義方法を学ぶことができたがそれを学生に提供することができていない。

②今後の改善方策

・具体的な年間計画を立て、計画的に行う必要がある
・業務内容の見直し、効率化を図る。
・研修会スケジュールの把握
・ディプロマポリシーに沿った総括的評価による専門的人材育成、それに基づくカリキュラムポリシーによるカリキュラム内容の検討、時期・教科に応じた専門職教育のタキソノミー（教育目標）による到達度の設定・評価、教育目標を達成するためのマスタリーラーニング（完全習得学習）の検討など系統的な教育体制が職業教育・専門職教育においては大前提となる。看護学科では行われていると思うが、他学科でも学内での系統的な教育体制の構築と実践が必要。
医学系学科での実習では、2020年からの医学部でのpost CC OSCEの必須化をはじめ、理学療法学科でも2021年度の評価実習よりpre/post OSCE、ポートフォリオ評価、チェックリスト評価などの総括的評価、形成的評価を行わなければならなくなった。
・カリキュラムの構成や、学生の到達目標を明確に提示する。

③特記事項

特になし

適切・・・4，ほぼ適切・・・3，やや不満・・・2，不適切・・・1

(4) 学修成果		評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

・コロナウイルスの影響もあり卒業後の活動について把握しにくい。
・今年度の課題として1名の退学者がいたこと。突然の退学希望であり対策等ができなかった。
・臨床実習がコロナの影響で制限があったこともあり、関係性が希薄になりつつある
・入学後すぐの職業（資格）意識の向上を図る必要がある

②今後の改善方策

・宅習や課題の提出内容の確認や日常での変化などを見落とさず、面談でなく普段からコミュニケーションを図るようにする。
・実習施設の訪問計画の見直し
・現場で活躍している卒業生に話を聞ける機会を作っていきたい

③特記事項

特になし

適切・・・4，ほぼ適切・・・3，やや不満・・・2，不適切・・・1

(5)学生支援		評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

・課外活動に関しては積極的に取り組めたらと思うがコロナなどもあり先方の受け入れも難しいことがあった。
・コロナの影響もあり卒業生や高校など外部への取り組みがあまり行えていない
・スクールカウンセラー等の相談員の充実。

②今後の改善方策

・学生へも医療人として意識付けと学内でのコロナ対策を徹底していることを先方へ伝える。地域の方や病院施設の先生方とも積極的にコミュニケーションを図る。

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(6)教育環境		評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を設備しているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3

①課題

・施設、設備が古かったり、老朽化していたりするものがある
・学生用のコピー機が壊れたままであり、調べ学習や実習前の資料検索・コピーをする学生がいなくなった。実習への準備が不十分なまま実習にでる学生も多い。コピーできないため図書をそのまま持ち帰ってしまうためか、図書の紛失も目立つ。実習や国家試験などの学習にも非常に支障が出ている状態である。
・備品等の整理整頓と充実

②今後の改善方策

・何が必要なのかを具体的にリスト形式であげて稟議していく。
・管理点検を定期的に実施する
・ネット環境の改善が必要である
・何が必要なのか、具体的にリストアップし、稟議していく

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(7)学生の受け入れ募集		評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	3
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
3	学納金は妥当なものとなっているか	3

①課題

・募集活動と教育活動の両立
・募集活動については、積極的に行われている
・定員の確保が必要である
・奨学金や、各種補助金についてしっかりとお知らせする
・職員が兼務となっている部分は、負担が大きくなっている感じもある

②今後の改善方策

・学科の定員割れに関しては、内容をしっかりと分析し、具体的な対策をとる必要がある
・海外のフェアーへの参加
・作業療法学科の学費は低く抑えられ、その魅力を積極的にアピールできれば
・入学までの細かなフォーロアップを考えると、募集担当者と教員は分け、両者間の連携が理想ではないかと思う

③特記事項

・特になし

適切･･･4, ほぼ適切･･･3, やや不満･･･2, 不適切･･･1

(8)財務		評価
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について会計監査が適正に行われているか	3
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3

①課題

・備品や消耗品を新しく購入するための予算が学科になく、稟議を上げてから購入までの時間がかかる

②今後の改善方策

・年度はじめに、学科の予算はもらえないだろうか
・学校運営、学校評価に基づいて公開できるところは開示していくよう努力する
・情報は開示するべきと考える

③特記事項

学園全体として透明性の高い組織と思っており給与、賞与などの説明も丁寧に実施してくれるため信頼できると考えています。

適切･･･4, ほぼ適切･･･3, やや不満･･･2, 不適切･･･1

(9)法令等の遵守		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
2	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	3

①課題

・自己評価結果が次年度に改善されていない部分もある
・毎年度末に自己点検・評価を行うが、行う以上、次年度の改善へ向けて努力すべきである

②今後の改善方策

・積極的に自己評価を行っていく
・せっかく全教員が自己点検・評価を実施するので、改善できる点は少しずつでも改善していくよう取り組んでいく

③特記事項

・自己評価の公開をインターネットで行い、より透明性のある学校運営に努める。

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(10)社会貢献・地域貢献		評価
1	学校教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

・ころばん体操にて、理学療法士の専門性を活かして地域高齢者に貢献できていると考える
・コロナの影響でボランティアの推進があまり行えていない
・地域に必要とされる学科になるために、学内業務と学外業務の両立が課題である。

②今後の改善方策

・ころばん体操の継続
・状況に合わせたボランティア協力を検討していく
・昨年度に引き続き、市と連携して市民講座を実施できた。来年度も更に充実させていきたい。

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(11)国際交流		評価
1	留学生の受入・派遣について戦略を持って行っているか	3
2	留学生の受入・派遣、在籍管理等において適正な手続き等が取られているか	3
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

①課題

・コロナ感染症拡大のため、留学生の受け入れができていない

②今後の改善方策

・オンラインでの対応とその充実
・留学生は大変優秀なため、日常生活においては特に問題はない
・日本語習得のために、アルバイトなど積極的に取り組んでいる

③特記事項

特になし

4　学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・自全体的に成長と発展のため努力していると、成果を評価できる。より課題を見つければ、「情報共有の在り方や職員研修の在り方など、指導者側の力量や人間性をどう高めていくのかは常に求められる。そして、その課題をどのように具体化するのか、職員一人一人が　熟考することである。その体制づくりが急務である」と考える。以上、抽象的であるが、　その中に物事の本質が存在するものであると思う。
・学校評価、情報公開し地域、医療への貢献度を高めることは重要と考えます。
・日々の運営の中で学生の過ごしやすい学校運営に取り組んでいると思います。
・クレドの浸透を図り、各行事を通した意識の向上を図りたい
・地域密着型でよくやっていると思いますが、もっと学生が入学しやすい奨学金制度を是非作ってほしい